

(様式3)

平成18年度学校経営計画に対する最終評価報告者

石川県立中島高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
1 基本的な生活習慣を確立し、人間としての正しい在り方や前向きな生き方を実現する。	【努力指標】(内部・生徒) 遅刻指導を強化する。	登校時・授業時・集会時について遅刻をさせない。		数人の遅刻常習者があり、この項目に掲げる全ての遅刻を無くする指導が功を奏せず、職員の中に疲労感が漂った1年であった。 当然次年度も引き続き、最優先の課題として取り上げていかなければならない。
		A・生徒全員が、始業・集合時間におくれることなく準備が整っている。	A = 16.3%	
		B・準備は整っていないが、ほとんどの生徒が始業・集合時間に遅れず時間を守っている。	B = 25.6%	
		C・始業時間等に遅れる生徒が少しいるため、開始時間が遅れることもある。	C = 41.3%	
		D・始業・集合時間に遅れる生徒が多く、なかなか態勢が整わない。	D = 16.9%	
	【努力指標】(内部・生徒・保護者) 生徒の服装・態度・姿勢を整える。服装容儀指導を徹底する。	生徒の服装・態度・姿勢を整える。		全体的に見て、A + Bの評価の割合が高くなっている。学校全体を見た教員の感想は「昨年より乱れている」であるが、服装の乱れに対する生徒の感覚が校則と遊離していると感じるむきもある。依然として「着崩し」の傾向が強く、身だしなみへの意識向上に引き続き取り組みたい。
		A・平素より、全体的にきちんとした身なり・態度が見られ、生徒たちは、その姿勢が身に付いている。	A = 15.8%	
		B・注意は必要とするものの、ほとんどの生徒の服装・容儀が正されている。	B = 46.9%	
		C・服装の乱れがやや目につき、指導の徹底が十分でない。	C = 27.1%	
		D・服装の乱れや態度が悪く、常に注意が必要である。	D = 10.2%	
	【成果指標】(内部・生徒) 遅刻・立ち歩き・私語がなく、授業に集中できる環境となっている。授業規律の確立を図る。	遅刻・立ち歩き・私語がなく、授業に集中できる環境となっている。		遅刻・立ち歩き・授業中の私語などを完全に無くすることが出来ず、評価はあまり良くない。来年度も引き続き、授業の規律の確立に取り組んでいきたい。
		A・生徒全員が始業に遅れることなく着席し、私語もなく落ち着いた学習環境が保たれている。	A = 13.1%	
		B・授業導入時は、遅刻や忘れ物をする生徒で開始は遅れるが、ほとんどの生徒は真面目に授業に取り組んでいる。	B = 44.0%	
		C・遅刻・立ち歩き・私語の注意が多く、全体がなかなか集中できない。	C = 30.9%	
		D・遅刻・立ち歩き・私語をやめない不必要な物を片づけないなど、授業に臨む態勢が全く整わない。	D = 12.0%	
	【成果指標】(内部・生徒) 毎日の清掃当番にしっかり取り組めた。清掃活動の徹底を図る。	毎日の清掃当番にしっかり取り組めた。		A + Bの割合が5割に満たなかったが、これも数名の特定の生徒が自分の勤めを果たさなかったためと思われる。勿論来年度も引き続き、強化して取り組みたい。
		A・当番清掃にしっかり取り組み、美化意識が向上した。	A = 12.2%	
		B・多くの生徒が当番清掃に取り組み美化意識が向上した。	B = 34.0%	
		C・当番清掃に取り組めたが、自主性に欠ける。	C = 40.4%	
		D・清掃に取り組まない生徒が目立ち、美化意識が欠如した。	D = 13.5%	
	【成果指標】(内部) 問題行動の発生が減り、再発もない。問題行動発生防止策を講じ実践する。	問題行動の発生が減り、再発もない。		学校全体として、生徒指導に明け暮れたとの印象が強く、問題行動の発生は減ってはいないが、組織として取り組んだとの評価であろう。A + Bの割合が94%と高度であり、各職員の取り組んだ姿勢が窺える。 朝の挨拶運動や登下校時の駅指導や休み時間や放課後の声かけも取り組んでいる。
		A・積極的に問題行動の発生防止策を実践し、撲滅に努め、再発防止の継続指導を行った。	A = 18.8%	
		B・学年団等の協力体制に賛同し、未然防止策の実践に努力した。	B = 75.0%	
		C・時間に余裕のある時の協力にとどまり、積極的な実践に努めることはなかった。	C = 6.3%	
		D・問題行動の未然防止策の実践に努力したとは言えない。	D = 0.0%	

2 基本的な学習習慣を身につけることで学習に対する意欲を高め、基礎基本の習得とともに発展的な学力も養う。	【成果・満足度指標】(内部・生徒) 数学や英語の習熟度別授業は、数学を理解するのに役立った。習熟度別少人数学習のメリットを生かす工夫をする。	A・より理解できた。	A =	17.2%	今年度も数学と英語とで習熟度別授業を導入しているが、依然として3割強の生徒が理解が進まないとの回答である。本校入学生生の多くは数学と英語の苦手意識があるため、できるだけ意識を無くするように教員側の工夫が必要である。
		B・まあまあ理解できた。	B =	48.4%	
		C・少し理解できない点が残った。	C =	25.0%	
		D・あまり理解できなかった。	D =	9.4%	
	【努力指標】(内部) 学習指導計画を工夫し、授業研究を計画的に実施する。指導法の改善や教材の開発を進め、授業公開・研究授業・研究協議を充実する。	A・50%以上の教員が実施している。	A =	6.3%	A + Bの割合が昨年よりは低下しているものの、80%強の比率で教師として工夫や努力をしているとの思いである。ただ、昨年よりは下記事項の生徒の意識がかなり高くなっていることは評価できる。
		B・40%以上の教員が実施している。	B =	75.0%	
		C・30%以上の教員が実施している。	C =	18.8%	
		D・実施は30%以下であった。	D =	0.0%	
	【満足度指標】(生徒) 先生は、生徒たちの学習意欲を一層高めようと努力している。指導法の改善や教材の開発を進め、授業公開・研究授業・研究協議を充実する。	A・ほとんどの先生が努力している。	A =	37.8%	昨年度50%に満たなかった生徒の評価が今年度は77%の生徒が教員の努力を評価している。教員の工夫・努力もさることながら、一部の生徒の指導で悪銭苦闘している姿勢に多くの生徒がエールを送っている現れであろうか。
		B・努力しているのは半数ほどである。	B =	38.9%	
		C・少しの先生しか努力していない。	C =	16.1%	
		D・努力している先生はあまりいない。	D =	7.2%	
	【満足度指標】(生徒) 放課後・長期休業中を活用して特別学習指導を実施する。学習の遅れた所は、特別に指導してもらえないので不安はない。	A・学習が遅れても不安はない。	A =	17.3%	昨年度よりはA + Bの比率が上がったものの、依然多くの生徒が学習の遅れに不安を感じている。生徒は学習に不安を感じることは、学習に対して真面目に取り組んでいることの表れであり、授業の工夫改善の取り組みように喚起したい。
		B・学習が遅れても不安はないと思うことが多い。	B =	34.6%	
		C・学習が遅れると少し不安になる。	C =	39.5%	
		D・学習が遅れると不安だ。	D =	8.6%	
【満足度指標】(生徒) 放課後・長期休業中を活用して特別学習指導を実施する。どの授業も、わかりやすく理解できる。	A・多くの先生の授業はわかりやすく充実している。	A =	18.5%	分かりやすい授業として、Aが2.5倍に増加している。これは分かりやすい授業との評価が激増したことになるが、教員側の日常の苦心惨憺が生徒にも分かるのであるうか。しかし、依然としてC + Dが33%あり、引き続き分かりやすい授業にと心を傾け、努力する必要がある。	
	B・分かりやすい授業をする先生は、半数以上いる。	B =	48.1%		
	C・分かりやすい授業をする先生は、半数に満たない。	C =	22.8%		
	D・分かりやすい授業が少ない。	D =	10.5%		

<p>2 基本的な学習習慣を身につけることで学習に対する意欲を高め、基礎基本の習得とともに発展的な学力も養う。</p>	<p>【成果指標】（内部・生徒）家庭学習の定着を図る。</p>	<p>課題の提出等がなされ、家庭学習の時間が定着した。</p> <p>A・家庭学習が1時間以上なされ、課題提出も8割以上達成した。 A = 13.3%</p> <p>B・8割以上の生徒の家庭学習が定着し、課題提出もおおむねなされた。 B = 24.7%</p> <p>C・過半数の生徒に家庭学習が定着し、課題もおおむね提出されている。 C = 39.2%</p> <p>D・ほとんどの生徒が家庭学習しておらず、課題も提出しない。 D = 22.8%</p>	<p>1年生や3年生の一部に遅刻・欠席が多い特定の生徒が存在しており学校全体の空気に大きく影響しているものと思う。 次年度に向けて、新たな取り組みが必要となろう。</p>
<p>3 進路に対する意識を高め、進路実現に向けた学習や体験活動を行い、社会性や自立心を育てる。</p>	<p>【努力指標】（内部）図書室の利用の増大を図る。</p>	<p>利用者数、貸し出し数が増加し、読書に親しむ生徒を増やす。</p> <p>A・80%以上の生徒が図書館を利用し、読書活動が活発である。 A = 16.4%</p> <p>B・50%以上の生徒が図書を借りた。 B = 18.8%</p> <p>C・図書を借りる生徒は50%以下だ。 C = 26.5%</p> <p>D・図書を借りる生徒は少ない。 D = 38.3%</p>	<p>図書館を利用する生徒が固定化し、全体としても利用する数が少ない現状である。本校生徒の活字離れが際だっている。</p>
	<p>【努力指標】（内部）学ぶ意欲を高め、進路意識を啓発する。</p>	<p>具体的目標の提示によって学習意欲を高め、進路実現に向けて努力する態度を育てる。</p> <p>A・成績の向上、資格の取得など具体的目標の提示、助言によって全体の学習意欲と進路意識が高まった。 A = 31.3%</p> <p>B・具体的目標の提示、助言によって学習や進路に対する意欲を持って取り組む生徒が少しずつ出てきた。 B = 50.0%</p> <p>C・目標を持ったものの、努力する様子に甘さが見られ、意識の喚起までは到達していない。 C = 6.3%</p> <p>D・目標を持たせる指導が十分でなく、意欲の増大が図れなかった。 D = 12.5%</p>	<p>生徒は素直に教員の指示に従って取り組む姿勢が見られ、全体として自分の進路実現に向けての努力が徐々に出ているようだ。</p>
	<p>【成果指標】（内部・生徒・保護者）生徒・保護者への進路情報の提供及び体験学習の充実を図る。</p>	<p>全学年で、生徒・保護者個々の必要とする進路情報を提供された。また、職場体験によって適切な進路選択が行われるようになってきた。</p> <p>A・生徒・保護者が必要とする進学・就職情報が十分に提供され、職場体験も進路選択に有効に生かされた。 A = 14.4%</p> <p>B・生徒・保護者が必要とする進学・就職情報はある程度提供され、職場体験も進路選択にある程度生かされた。 B = 58.8%</p> <p>C・生徒・保護者向けの進学・就職情報が十分に提供されず、職場体験も進路選択にあまり有効ではなかった。 C = 19.6%</p> <p>D・生徒・保護者が必要とする進学・就職情報がほとんど提供せず、職場体験はまったく意味がなかった。 D = 7.2%</p>	<p>昨年より取り組みをしているインターシップ[®]の効果が徐々に現れていると思われる結果となっている。</p>
	<p>【成果指標】（内部・生徒・保護者）進路希望を早期に明確にさせる。</p>	<p>進路希望を明確にして、実現に向けての努力する姿勢が見られる。</p> <p>A・ほとんどの生徒が進路希望を明確にし、その実現に向けての努力をし始め、学習態度・生活態度が良くなった。 A = 15.3%</p> <p>B・多くの生徒が進路希望を明確にしたものの、実現に向けての努力にまだ甘さが見られる。 B = 51.0%</p> <p>C・全体的に進路希望を明確にして行こうとする様子はあるが、未だ学習態度・生活態度の改善が見られない。 C = 27.4%</p> <p>D・進路希望を明確にせず、目的意識を持たない生徒が多い。 D = 6.4%</p>	<p>昨年より幾分A+Bの割合が増えているが、19年度から新たに1年生に対し、進路意識の向上を図るべくインターシップ[®]事業を展開する計画である。自分の進路をできるだけ早くに意識することで、高校生活の充実を図りたい。</p>

<p>3 進路に対する意識を高め、進路実現に向けた学習や体験活動を行い、社会性や自立心を育てる。</p>	<p>【満足度指標】（内部・生徒・保護者） 進路に応じた個別指導を充実させる。</p>	<p>作文（小論文）、面接の指導が計画的に行われるとともに、進学希望者に対する模擬試験と個別指導が適切に行われ、意欲及び成績が向上した。</p> <p>A・意欲及び成績が大変向上した。 A = 13.2%</p> <p>B・意欲及び成績がかなり向上した。 B = 46.5%</p> <p>C・意欲及び成績が少し向上した。 C = 29.2%</p> <p>D・意欲及び成績の向上がほとんど見られなかった。 D = 11.1%</p>	<p>前の項目と同じで、幾分割合として良い方にシフトしているものの、まだまだ意欲や成績面で不足している傾向があり更なる意識向上に努めなければならない。</p>
<p>4 演劇教育を通して、自己表現やコミュニケーション能力を高め、人間形成を図る。</p>	<p>【努力指標】（内部） 演劇の授業の更なる工夫と充実を図る。</p>	<p>授業の工夫と充実を図ることで、生徒の表現に対する意欲を高める。</p> <p>A・授業の工夫と充実が図られたことで、生徒の表現に対する意欲が高まった。 A = 18.8%</p> <p>B・授業の工夫と充実がある程度改善されたことで、生徒の表現に対する意欲もある程度高まった。 B = 68.8%</p> <p>C・授業の工夫と充実があまり改善さなかったことで、生徒の表現に対する意欲もあまり高まらなかった。 C = 12.5%</p> <p>D・授業の工夫と充実が改善さなかったため、生徒の表現に対する意欲も高まらなかった。 D = 0.0%</p>	<p>生徒の演劇コースへの志望理由はさまざまであり、多様な生徒たちの実体にあわせるように授業内容を工夫したことへの評価であると思われる。演劇に固執せずしかも演劇の基本であるコミュニケーション分野のレベルを高く維持していくことが重要であろう。</p>
<p>成果発表としての卒業公演を成功させる。</p>	<p>【成果指標】（内部・生徒・保護者） 演劇教育の集大成としての卒業公演が成功裏に行われた。</p>	<p>平成18年度は舞台装置、衣装、小道具などの製作が従来と比べ大がかりであった。ごく特定の関係者のみに負担をかけていくのではなく、学校全体として実践していく方向を確立したい。</p> <p>A・計画・準備・本番を通じた活動全般が順調に進められたことで、公演そのものが大きな成功を収めた。 A = 23.7%</p> <p>B・計画・準備・本番を通じた活動に少しの停滞があったものの、公演はかなりの評価を得た。 B = 56.6%</p> <p>C・計画・準備・本番を通じた活動に停滞があったことで、公演そのものも、よい出来ではなかった。 C = 10.5%</p> <p>D・計画・準備・本番を通じた活動にかなりの停滞が生じたことで、公演が不調に終わった。 D = 9.2%</p>	<p>外部公演が活発に行われ、奉仕の精神も向上している。</p>
<p>ボランティア活動としての外部公演を充実させる。</p>	<p>【満足度指標】（内部・生徒・保護者） 外部公演が活発に行われ、奉仕の精神も向上している。</p>	<p>A・生徒たちは、外部公演に積極的にでかけ、表現力を高めるとともに奉仕の精神が大きく向上した。 A = 28.7%</p> <p>B・生徒たちは、外部公演にでかけることで、表現力のある程度高めるとともに奉仕の精神も身につくようになった。 B = 49.4%</p> <p>C・生徒たちは、外部公演にあまりでかけたがらないため、表現力向上に対する意欲も高まらず、奉仕の精神もあまり身につかなかった。 C = 14.9%</p> <p>D・生徒たちは、外部公演にでかけたがらず、表現力向上に対する意欲も乏しく、奉仕の精神も身につけていない。 D = 6.9%</p>	<p>外部活動については回数、内容ともに相当努力を払っている。演劇コース全体として充実させていくことで、本校の存在価値を高めることになるであろう。</p>
<p>演劇教育の広報活動の工夫と充実を図る。</p>	<p>【努力指標】（内部） 演劇教育の広報活動の工夫と充実を図る。</p>	<p>演劇教育の広報活動が奏功して、多くの県民が演劇教育を支持し、入学者が増えた。</p> <p>A・広報活動が入学者数を増やすことに貢献した。 A = 87.5%</p> <p>B・広報活動が入学者数を増やすことにある程度役立った。 B = 12.5%</p> <p>C・広報活動が入学者数を増やすことにあまり役立たなかった。 C = 0.0%</p> <p>D・広報活動が入学者数を増やすことに役立たなかった。 D = 0.0%</p>	<p>演劇教育の広報とは1)中学校訪問、2)卒業公演、3)外部発表、4)報道への依頼などの意味で、充実化が図られている。</p>